

第2 「学校応援団」とは



放課後学習会
蓮田市立蓮田南中学校

「学校応援団」の概要について

1 趣旨

家庭を含む地域全体で学校教育を支援する体制づくりを推進することにより、教員の子供と向き合う時間の増加、住民等の学習成果の活用機会の拡充及び家庭・地域の教育力の向上を図る。

2 内容

(1) 「学校応援団」とは

○学校における学習活動、安全確保、環境整備などについて、ボランティアとして協力・支援を行う保護者・地域住民による活動組織

(2) 「学校応援コーディネーター」とは

○各学校において教職員以外の者で、学校と家庭、地域が連携した様々な活動（「学校応援団」の活動）の連絡・調整をする者

○県では、「学校応援団」の組織的・継続的な活動を目指すため、「学校応援コーディネーター」の複数配置を推奨している。

○「埼玉県5か年計画」においては、「公立小・中学校と『学校応援団』の調整（コーディネート）を行う人」と示され、平成33年度末までに3,100人の配置が施策指標となっている。

○「学校応援コーディネーター」の担い手

（例）PTA関係者・学校評議員・学校運営協議会等関係者・「おやじの会」関係者
町内会長・区長・自治会長・民生委員・児童委員

○「学校応援コーディネーター」の役割

（例）・「学校応援団」の活動に参画する地域の様々な団体・組織等との連絡・調整
・地域や学校の実情に応じた「学校応援団」の活動の企画・立案

※県が例年実施している「『学校応援団』の推進に係る調査」においては、「『学校応援団』が組織されており、学校と『学校応援団』との調整役（教職員以外）がいる」学校を「『学校応援団』が組織された学校」と定義している。

(3) 「学校応援団」の主な活動内容

- 学習活動への支援・・・「学習支援ボランティア」として、児童生徒の学習活動を支援
- 安心・安全確保への支援・・・児童生徒の登下校時などの安全確保を支援
- 学校環境整備への支援・・・花壇の整備を行うなど、教育活動の環境整備を支援
- 部活動・クラブ活動への支援・・・経験を活かした部活動指導や大会への引率支援

【現状】	活動内容（令和元年度）	小 学 校	中 学 校
	学習活動への支援	691校	183校
	安心・安全確保への支援	687校	277校
	学校の環境整備への支援	648校	307校
	部活動・クラブ活動への支援	155校	159校

※1 中学校には、義務教育学校を含む

※2 複数の活動を行う学校あり

【成果】

○「地域人材」を活用した支援活動の結果という視点から

- ・子供の多様な体験や経験が増加したり、子供の学習意欲が向上した。
- ・子供の地域への理解・関心が深まった。

○学校と家庭・地域との連携という視点から

- ・学校への支援を通じ、保護者や地域の方の学校に対する理解や信頼が深まった。
- ・保護者や地域の方が来校することにより、学校と家庭・地域との連帯感が強まった。
- ・保護者や地域の方の「生きがい」や「やりがい」などにつながった。

【課題】

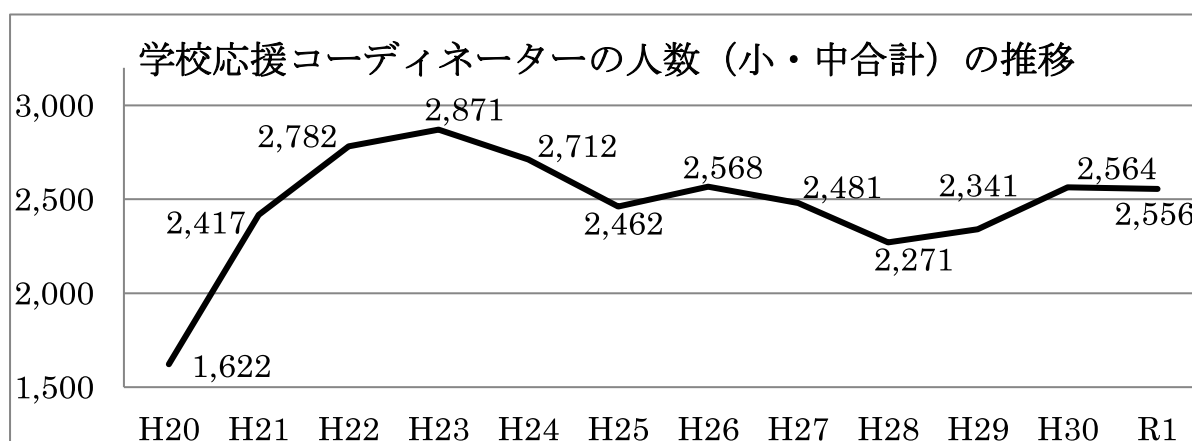
- ・学校応援コーディネーターやボランティアの人材確保
- ・学校応援コーディネーターやボランティアとの打ち合わせや調整時間の確保

3 「学校応援団」の組織率の推移

	小学校			中学校		
	応援団が組織されている学校数(校)	組織率(%) 【※】	学校応援コーディネーター人数(人)	応援団が組織されている学校数(校)	組織率(%) 【※】	学校応援コーディネーター人数(人)
平成17年度	7	1				
平成18年度	208	29				
平成19年度	270	38				
平成20年度	456	64	1,274	122	33	348
平成21年度	637	89	1,875	192	52	542
平成22年度	713	99	1,931	276	75	851
平成23年度	713	100	1,995	351	97	876
平成24年度	710	100	1,948	363	100	764
平成25年度	709	100	1,712	362	100	750
平成26年度	708	100	1,754	361	100	814
平成27年度	708	100	1,761	359	100	720
平成28年度	708	100	1,601	355	100	670
平成29年度	708	100	1,699	355	100	642
平成30年度	706	100	1,874	355	100	690
令和元年度	702	100	1,865	354	100	691

※1 中学校には、義務教育学校を含む

※2 「組織率」＝「応援団が組織されている学校数」／「全学校数」



令和元年度「学校応援団」の推進に係る調査結果概要

※中学校には、義務教育学校を含みます。

1 「学校応援団」の組織状況

選択肢	小回答	小割合	中回答	中割合
「学校応援団」（学校を支援する組織）が組織されており、学校と「学校応援団」との調整役（教職員以外）がいる。	702	100%	354	100%
学校を支援する組織はあるが、学校と組織との調整役がない。	0	0%	0	0%
学校の教育活動の支援を行う組織がなく、調整役もない。	0	0%	0	0%

2 「学校応援コーディネーター」の人数

選択肢	小回答	小平均	中回答	中平均
合計・1校あたりの平均配置人数	1865	2.7	691	2.0

小・中学校合計・平均	2556	2.4
------------	------	-----

3 「学校応援コーディネーター」の担い手

選択肢	小回答(1865)	中回答(691)
現PTA関係者	479	283
元PTA関係者（PTAのOBなど）	331	155
学校評議員・学校運営協議会等関係者	277	105
学校教育に理解のある地域住民	246	40
町内会長・区長・自治会長など	212	18
学校支援グループの関係者（「おやじの会」等の保護者による会やNPO団体等）	145	44
民生委員・児童委員	54	15
退職教職員	36	10
公民館等社会教育施設職員	23	5
商工会議所・青年会議所等の地元団体の関係者	8	3
行政関係者	8	2
企業関係者	2	2
その他	44	9

4 「学校応援コーディネーター」が行う業務

（複数回答あり）

選択肢	小回答	小割合	中回答	中割合
「学校応援団」の活動に参画する地域の様々な団体・組織等との連絡・調整	500	71.2%	245	69.2%
地域や学校の実情に応じた「学校応援団」の活動の企画・立案	335	47.7%	198	55.9%
新たなボランティアの募集活動	310	44.2%	102	28.8%
家庭・地域に向けた「学校応援団」の活動の周知活動（広報紙の発行等）	188	26.8%	100	28.2%
ボランティア名簿の作成・管理	156	22.2%	49	13.8%
「学校応援団」の活動の記録簿等の作成・管理	104	14.8%	43	12.1%
コーディネーターの交代、複数配置等に向けた新たなコーディネーターの育成活動、引き継ぎ等	101	14.4%	35	9.9%
コーディネーターの複数配置校における、コーディネーター同士の連携	77	11.0%	26	7.3%
ボランティア対象の研修会や交流会の企画・運営	47	6.7%	17	4.8%
学校と「学校応援団」との調整役以外の業務は行っていない。	92	13.1%	58	16.4%
その他	10	1.4%	1	0.3%

5 「学校応援団」の活動に参加する方々が打合せや準備作業などに使用する場所

(複数回答あり)

選択肢	小回答	小割合	中回答	中割合
会議室や図書室、家庭科室等の教員・児童も使用する部屋を日常的に使用できるようにしている。	253	36.0%	76	21.5%
P T A等との共用の部屋を確保している。	150	21.4%	113	31.9%
余裕教室を転用した専用の部屋を確保している。	102	14.5%	52	14.7%
校舎に、「コミュニティールーム」のような専用のスペースが元々設定されている。	28	4.0%	4	1.1%
学校外の施設（公民館・市民センター等）が使用されている。	23	3.3%	10	2.8%
校地内の校舎とは別の建物（体育館・プレハブの建物等）にスペースを確保している。	14	2.0%	2	0.6%
場所は設定していない。	249	35.5%	130	36.7%
その他	17	2.4%	8	2.3%

6 今年度の「学校応援団」の活動

(複数回答あり)

選択肢	小回答	小割合	中回答	中割合
学習活動への支援	691	98.4%	183	53.2%
安心・安全確保への支援	687	97.9%	277	80.5%
学校の環境整備への支援	648	92.3%	307	89.2%
体験活動への支援	527	75.1%	125	36.3%
学校ファームへの支援	390	55.6%	90	26.2%
環境教育への支援	217	30.9%	89	25.9%
部活動・クラブ活動への支援	155	22.1%	159	46.2%
生徒指導への支援	130	18.5%	94	27.3%
その他	44	6.3%	22	6.4%

7 「学習活動への支援」の内容

(複数回答あり)

選択肢	小回答	小割合	中回答	中割合
子供への本の読み聞かせ	641	91.3%	61	17.2%
授業などにおける、学習活動の支援	529	75.4%	78	22.0%
校外で学習する際の子供の付き添い、安全の確保	472	67.2%	12	3.4%
授業などにおける、学習内容に関する専門的な知識の話や技術・技能の教示	415	59.1%	73	20.6%
放課後や週末、長期休業中における、宿題や補習などの支援	154	21.9%	50	14.1%
その他	32	4.6%	14	4.0%

8 「安心・安全確保への支援」の内容

(複数回答あり)

選択肢	小回答	小割合	中回答	中割合
登下校時、通学路での安全確保	658	93.7%	161	45.5%
防犯パトロールを実施	462	65.8%	186	52.5%
登下校時、児童生徒の付き添い	430	61.3%	7	2.0%
その他	30	4.3%	33	9.3%

9 「学校の環境整備への支援」の内容

(複数回答あり)

選択肢	小回答	小割合	中回答	中割合
除草作業や花壇などの整備	577	82.2%	273	77.1%
学校図書館の整備や図書の整理	368	52.4%	46	13.0%
樹木や生垣の手入れや剪定	341	48.6%	159	44.9%
教室や校舎の修繕	125	17.8%	60	16.9%
校庭の遊具の整備や管理の補助	111	15.8%	14	4.0%
その他	60	8.5%	21	5.9%

10 「部活動・クラブ活動への支援」の内容

(複数回答あり)

選択肢	小回答	小割合	中回答	中割合
部活動やクラブ活動における、指導・助言や技術・技能の教示	150	21.4%	150	42.4%
部活動の大会などにおける、引率の補助	7	1.0%	53	15.0%
その他	3	0.4%	5	1.4%

11 「学校応援団」に対するお礼の活動等について

(複数回答あり)

選択肢	小回答	小割合	中回答	中割合
「感謝の会」を開くなど、感謝の気持ちを伝える場を設定	562	80.1%	45	12.7%
感謝の気持ちを表した手紙等の作成・贈呈	539	76.8%	78	22.0%
給食を準備し、児童生徒と一緒に食べる場を設定	232	33.0%	19	5.4%
感謝の気持ちを伝えるため、支援していただいている方の自宅や施設等を訪問	47	6.7%	5	1.4%
特にそのような機会は設けていない。	42	6.0%	217	61.3%
その他	19	2.7%	20	5.6%

12 「学校応援団」の活動に係る話し合いを行う場(「会議」)への対応

選択肢	小回答	小割合	中回答	中割合
「学校応援団会議」や「学校応援団連絡協議会」等の場を設けている。	478	68.1%	207	58.5%
「会議」は行っていない。	224	31.9%	147	41.5%

13 今年度の「会議」の開催回数・平均

選択肢	小回答	小平均	中回答	中平均
今年度の「会議」の開催回数・平均	1419	3.0	801	3.9

14 いじめの未然防止のための取組について

(複数回答あり)

選択肢	小回答	小割合	中回答	中割合
学校応援団に係る会議等で、情報提供の協力を依頼	349	49.7%	162	45.8%
「いじめ防止対策推進法」に基づいて作成した「いじめ防止基本方針」の中に、学校応援団による協力などについて記載	209	29.8%	82	23.2%
特に実施していない。	230	32.8%	141	39.8%
その他	21	3.0%	9	2.5%

15 「地域人材」を活用した支援活動の結果という視点から「成果」として考えられること

(複数回答あり)

選択肢	小回答	小割合	中回答	中割合
子供の多様な体験や経験が増加した。	647	92.2%	234	66.1%
学習活動の支援により、子供の学習意欲が向上した。	588	83.8%	111	31.4%
子供の地域への理解・関心が深まった。	464	66.1%	194	54.8%
「地域人材」を授業等で活用する「よさ」について、教員の理解が深まった。	382	54.4%	86	24.3%
学校や教員の負担が軽減された。	378	53.8%	152	42.9%
専門的な知識や技能が授業に活用されることにより、授業の質が向上した。	330	47.0%	50	14.1%
子供のコミュニケーション能力が向上した。	288	41.0%	114	32.2%
子供の学力や体力が向上した。	181	25.8%	48	13.6%
教員が授業や生徒指導などにより力を注ぐことができた。	120	17.1%	48	13.6%
不登校やいじめなど生徒指導上の課題が減少した。	57	8.1%	16	4.5%
その他	11	1.6%	3	0.8%

16 学校と家庭・地域との連携という視点から「成果」として考えられること

(複数回答あり)

選択肢	小回答	小割合	中回答	中割合
学校の教育活動への支援を通じ、保護者や地域の方の学校に対する理解や信頼が深まった。	646	92.0%	302	85.3%
保護者や地域の方が来校することにより、学校と家庭・地域との連帯感が強まった。	643	91.6%	304	85.9%
保護者や地域の方の「生きがい」や「やりがい」などにつながった。	457	65.1%	93	26.3%
子供を地域ぐるみで育てるという教職員の意識が高まった。	384	54.7%	140	39.5%
地域で子供を育てる意識が向上した。	333	47.4%	113	31.9%
子供が地域の行事に積極的に参加するようになった。	191	27.2%	106	29.9%
地域コミュニティが活性化した。	136	19.4%	36	10.2%
その他	11	1.6%	1	0.3%

17 「学校応援団」の活動の充実にあたって「課題」として考えられること

(複数回答あり)

選択肢	小回答	小割合	中回答	中割合
ボランティアを集めること	488	69.5%	174	49.2%
学校応援コーディネーターとして依頼できる人材確保	444	63.2%	188	53.1%
学校応援コーディネーターやボランティアとの打ち合わせや調整時間の確保	433	61.7%	152	42.9%
「学校応援団」の活動内容を充実させること	262	37.3%	129	36.4%
「学校応援団」運営のための予算確保	261	37.2%	123	34.7%
「学校応援団」が使用する専用の場所の確保	214	30.5%	58	16.4%
「学校応援団」に支援していただく内容を明確にすること	208	29.6%	84	23.7%
地域の方の理解や協力を得ること	169	24.1%	79	22.3%
P T Aや保護者の理解や協力を得ること	137	19.5%	89	25.1%
教職員の理解や協力を得ること	109	15.5%	90	25.4%
学校応援コーディネーターの力量や意欲を高めること	106	15.1%	52	14.7%
企画・運営委員会や職員会議等での検討	88	12.5%	49	13.8%
参考事例となる情報やノウハウ・ツールの不足	51	7.3%	17	4.8%
学校経営方針への位置づけ	37	5.3%	30	8.5%
課題として考えられることはない	4	0.6%	6	1.7%
その他	13	1.9%	3	0.8%